オンライン ISSN 2435-7707

# 拓　蹊

第 5 号

広島中国近代史研究会
2023 年 8 月 31 日

# 目次

合評会：金子肇『近代中国の国家と商人：税政と同業秩序のダイナミクス』 1

参考資料 25

田中仁先生研究業績目録（作成：丸田孝志） 29

田中仁さんを偲ぶ 45

編集後記 53

# 編集後記

不定期刊行の『拓蹊』だが、2023 年 3 月の第 4 号に引き続き、今年度 2 冊目の第 5 号を完成させることができた。今回も編集は金子肇さん、丸田孝志さん、そして水羽が担当した。

今回は第 1 特集として、2023 年 5 月に実施した金子肇さんの最新刊をめぐる合評会の記録を収録した。富澤芳亜さんには、猛烈に忙しいなか報告者をお引き受けいただいた。企画を立てた一人としてこの場を借りて、再度、心からの感謝の思いを伝えたい。また富澤さんの報告は、『史学研究』に書評として掲載される予定だと聞いている。今回の研究会も、広島大学の在学生・卒業生だけでなく、奥村哲さん、飯塚靖さん、小野寺史郎さんら学外の方々が参加してくださり、紙面からも伝わるように、活発な議論が行われた。その「熱」はなにより金子さんの研究の魅力に起因している。と同時に、この研究会を自分たちの鍛錬の場ととらえる参加者の共通の思いからも、生まれているだろう。今後とも充実した研究会を継続したい。

特集の 2 つ目は田中仁さんの追悼にあてた。田中さんは奈良県で 1954 年に生まれ、1973 年 4 月から 84 年 3 月まで広島大学で学んだ。ちなみに追悼文の執筆者のなかでは、郭海良さんと笹川裕史さん、そして編集担当の三人が、広島大学の東千田キャンパスでともに学んでいる。田中さんは、大阪外国語大学で研究者としての道をスタートさせ、外大と大阪大学の統合にともない 2007 年より阪大法学部に所属した。この間の活躍の詳細は本誌特集に譲るが、69 歳になったばかりでの逝去であった。今回の追悼特集の内容は、編集担当の三人が企画を練り、業績目録を丸田さんが編年体に編集し、広島中国近代史研究会になんらかの形でかかわった人たちに追悼文を呼びかけることにした。もっと工夫はできたろうが、まずは僕たちの仁さんへの思いを形にすることを優先した。

1982 年 3 月に曽田三郎先生の発案で誕生した広島中国近代史研究会も、100 回を超える例会、40 年以上の歴史を経て、ひとつの節目を迎えつつあるのかも知れない、とぼんやりと感じている。編集担当の金子さんと水羽も還暦を越え、丸田さんも 50 歳代だ。なによりもこの間、日本と中国をとりまく環境は大きくかわり、歴史学の存在意義に対する議論もさまざまに行われている。こうした時代の変化のなか、研究会そのもののありようを今一度考え直し、広島で中国近代史を研究する意味を個々のメンバーが改めて考えることも必要だろう。そうした議論の場に、この『拓蹊』が役立てば、と願っている。

（文責：水羽信男）

2023 年 8 月 31 日発行
編集担当：広島中国近代史研究会
739-8521　東広島市鏡山 1-7-1
広島大学総合科学部
水羽信男 研究室内